サガミ
SAGAMI
和食・麺処
S A G A M I
Il numero 1 dei ristoranti di
NOODLES GIAPPONESE
ご来店お待ちしております！
Vi aspettiamo a
・Milano
・Modena
・Parma Centro
・Parma Campus
・Verona
・Bologna
・Palermo MORE🔥😎🔥 MORE!!
www.sagami.it



Trattoria
BELA TUSA
Milano come una volta
Risotto giallo, cotoletta con l'osso, mondeghili: la cucina milanese di tradizione, all'Isola.
ミラノ伝統料理のトラットリア、イゾラ地区
Via Pietro Borsieri 26, Milano
Tel. 02 4953 5080 · www.belatusatrattoria.it
M5 Isola M3 Zara M2 Repubblica

隔月刊日本語新聞
2026年11-12月号

CiAO! JOURNAL

No. 64

隔月刊日本語新聞 - PUBBLICAZIONE PERIODICA GRATUITA distribuita in Italia
ANNO 10-NUMERO 6-NOVEMBRE/DICEMBRE 2026 | Edito da: Geienneffe Editore S.a.s.
Testata giornalistica iscritta al Tribunale di Milano n° 53 del 23/01/2017

お化けよりかわいいかも。

Mostruosamente... belle!

Curiosare il Giappone
Articoli in italiano da pag. 6

わくわくするイタリア新聞

Geienneffe Editore
弊社では以下の業務を行っています。
チャオジャーナルの出版
イタリア人への 語指導
日本人への 語指導
の通訳・翻訳
La nostra azienda offre:
pubblicazione di Ciao! Journal
corsi di per italiani
corsi di per giapponesi
traduzione e interpretariato
www.ciaojournal.com ciao@ciaojournal.com

Ciao! Journal 広告掲載料金
Tariffe per pubblicità

広告一回掲載料金
Tariffe Pubblicità per una singola uscita modulo（mm59×59）
€180＋IVA（mm59×59）
€100＋IVA（mm59×26.5）

1ページ Prima pagina
タイトル上 sopra la testata €380＋IVA

2,3,16 ページ Pagina 2,3,16 €220＋IVA

上記の料金に広告原稿作成代は含みません。
Non è compresa la tariffa di elaborazione del banner.

チャオジャーナル無料配布先募集
●イタリアの各地域への1回の送料: 25ユーロ
●クーリエサービスにて送付:ご希望部数100部まで
●本誌p.2の無料配布先に御社名記載

詳細のお問い合わせ
Per maggiori informazioni scrivere a
ciao@ciaojournal.com

CIAO! Journal 無料配布先（一部）
Dove trovare CIAO! Journal

Milano Consolato Generale del Giappone a Milano, JETRO, 日本人学校, Sagami, Poporoya, Ristorante Osaka, Yazawa, Gastronomia Yamamoto, Emoraya, Tanabata, Alimentari Gaghe, Hair Salon Otto, Hazama, Università degli Studi di Milano, Info Point Milano, JFC Italia, IperCoop Piazza Lodi店内 WARAI SUSHI, Trattoria BELLA TUSA, Kappou Ninomiya, Maido!

Roma Ambasciata del Giappone, Istituto Giapponese di Cultura, 日本人学校, Zensushi, Ristorante Mikachan, Ristorante Sushisen, Taki Ristorante Giapponese

Torino Takoyaki Minamoto, IperCoop Parco Dora店内 WARAI SUSHI

Pinerolo IperCoop Pinerolo店内WARAI SUSHI

Genova Coop Corso Europa店内WARAI SUSHI

Bologna Sagami

Verona Sagami

Modena Sagami

Parma Sagami

Firenze Centro commerciale Ponte a Greve店内 WARAI SUSHI

Arezzo Coop.Fi Centro Arezzo店内 WARAI SUSHI

Bari IperCoop Bari Japigia店内 WARAI SUSHI

Lecce IperCoop Lecce店内WARAI SUSHI

Palermo Sagami

Tokyo Istituto Italiano di Cultura Tokyo, サルトリア・イプシロン, クランデスティーノ41

Osaka Università di Osaka, Ristorante Il Principe

Kobe 神戸日伊協会

政界アラカルト

米国の制裁に立ち向かう日本人女性

米国はICC国際刑事裁判所（International Criminal Court）の判断を事あるごとに批判し、報復措置として職員個人に制裁を加えるまでになっている。ICCとは如何なる存在なのか。なぜ米国はこの機関を目の敵にするのか。

去る8月18日、米国の国務省並びに財務省はICCの赤根智子（あかね ともこ）所長とアブドゥライ・セイ主任検察官の各々に対し、個人的な経済制裁を課す旨を発表した。即ち、米国管轄圏における2人の財産を凍結し、米国の関与する銀行など金融システムへのアクセスを禁止したのである。米国のルビオ国務長官は「ICCは各国の政治に介入する、過度に汚職にまみれた機関。自らの権威を恣意的に乱用し、任務を跳躍・超過している」と強く非難した。続く9月の国連総会でトランプ大統領は「ならず者裁判所」および「違法機関」と言い放ち、ICC加入国に対して直ちに脱退するよう求めた。



Judge Tomoko Akane, President of the International Criminal Court
Foto ©Laurie Dieffembacq /European Union - 2025

ICC国際刑事裁判所とは

第2次世界大戦終了時、戦時中に行われた犯罪や残虐行為の反省から、「国を超えた機関を設立して国際規模で平和を保証しよう」と切望する声が世界各地でおこった。ニュルンベルクと東京に国際裁判所が設置され、戦争犯罪に問われた者達はこれらの裁判所で裁かれることになった。ニュルンベルク裁判では、大量殺戮行為を行ったナチス党員を含め、加害者と見なされた者たちに人道的原則に基づいた適正な手続きと弁護の機会を与えた上で、有罪判決が下された。東京裁判でも人道的原則の枠組みが与えられていた（とはいえ、こちらは戦勝国による一方的な裁きという側面が強く、その公平性には疑問が持たれている）。

そして、1948年には集団殺害犯罪（ジェノサイド）の防止と処罰に関する条約が採択され、それは国際刑事裁判所設立への第一歩となった。だが「侵略罪」の定義に関して各国の一致が得られず、その設立には至らなかったのである。それから半世紀もの長い年月を経て1998年、ローマ会議において、120カ国の賛成によって国際刑事裁判所の設立が決定された（「ローマ規程」の採択）。2002年7月1日、ICCがオランダのハーグに設置され、漸く日の目を見たのである。

ICCの取り扱う案件は、集団殺害犯罪、人道的犯罪、戦争犯罪、侵略犯罪の4種である。

ローマ規程

2026年現在、「ローマ規程」を125の国連加盟国が批准し、加入している。これに対し非締約国は以下の2つのカテゴリーに分類される：

《ローマ規程に署名・批准・加入のいずれも行っていない国》中国とインド。両国とも核保有国。自国の司法権より上位に立ちうる超

1977年創業老舗寿司店
ミラノっ子に愛されて
おかげさまで半世紀。
「おいしい!」の笑顔を
お届けするために、ポポロ屋は
これからも邁進して参ります。
毎日営業 Aperto tutti i giorni
Lun - Sab : 9:30-14:00/ 17:30-21:30
(※ Pranzo 11:30~/ Cena 18:00~)
Dom : 11:30-14:30/ 18:30-21:30
POPOROYA ®
ポポロ屋
dal 1977 a Milano
Via Eustachi 20
Milano
02-29406797
DAL 1977
Storico ristorante di sushi
Da mezzo secolo nel cuore dei milanesi.
Da sempre Poporoya vi regala il piacere di dire:
"Che buono!"
Con la stessa passione che ci accompagna dal 1977, continueremo a portarvi in tavola il gusto autentico che amate.

国家的管轄権に反対。

《署名はしたが批准・加入を行っていない国。あるいは署名を撤回した国》

米国：2000年にクリントン政権で署名したが、その後のブッシュ政権が撤回。

ロシア：2000年に署名したが、クリミア併合をICCに批判されことから2016年に撤回。

イスラエル：2000年に署名したものの議会では批准せず。

その他、署名したが批准していない国はエジプト、イラン、シリア、タイ、モロッコである。

ICCの刑事手続きと、締約国のなすべきこと

ICCが刑事手続きを行うのは、犯罪行為が行われた国がICC締約（加入）国である場合と、加害者の国籍が締約国である場合。また、非締約国であっても「ICCの管轄権を受諾する宣言」を行っている場合と国連安保理から捜査要請があった場合である。また、ICCは、当該国家が自ら捜査・訴追を行う意思がないか、その能力がない場合に初めて管轄権を行使する（刑事手続に入る）ことになっている。

ICCは独自の警察組織を持たない。そのため、締約国は国際犯罪の処罰を可能にするためにICCに全面的に協力する義務がある。ICCの逮捕状が出ている容疑者が自国内にいる場合、身柄を拘束してICCに引き渡す。ICCからの要請を受け入れた国（任意）は自国の刑務所などの施設に収容する。

ということから、ICCからの協力要請や身柄引き渡しにスムーズに対応できるよう、締約国は自国の国内法（手続き）を整備する義務がある。

逮捕状を受けている人物

ICCによる逮捕状の主要な対象者を挙げてみる。いずれの人物も現時点では身柄拘束されていない。前述のようにICCには独自の警察がないため、身柄拘束はローマ規程締約国の協力に依存している。

プーチン・ロシア大統領： 2023年3月逮捕状発付。容疑は戦争犯罪（ウクライナ占領地域からの子どもの不法な連れ去り）。

ネタニヤフ・イスラエル首相： 2024年11月逮捕状発付。容疑は、ガザ地区における人道に対する罪および戦争犯罪（飢餓を戦争手段として用いた容疑など）。

ガラント元イスラエル国防相：2024年11月逮捕状発付。容疑はガザにおける戦争犯罪および人道に対する罪。

アル＝バシール元スーダン大統領：2009年と2010年逮捕状発付。容疑はダルフール地区におけるジェノサイド、人道に対する罪、戦争犯罪。

ジョセフ・コニー氏（ウガンダの反政府勢力「LRA神の抵抗軍」の指導者）：2005年逮捕状発付。容疑は人道に対する罪および戦争犯罪（児童兵士の徴用や虐待など）。

ハイバトゥラ・アクンザダ氏（アフガニスタンのタリバン最高指導者）：2025年7月逮捕状発付。容疑は人道に対する罪（ジェンダーおよび政治的迫害）。

赤根所長への制裁とは？

ICCは、どのような国に属し、どのような立場にある人物であっても平等に裁く機関である。相手がどのような人物であろうと慄然と立ち向かい、また、一国の主張に依ることのない国際機関だ。

元検察官であり、現在はICCの裁判官を務めている赤根智子氏は、日本人として初めて、オランダ・ハーグにあるICC国際刑事裁判所の所長に就任した。ロシアとイスラエルのトップに逮捕状を発行した報復として、現在ロシアから指名手配、米国から経済的制裁を受けている。それぞれについて見てみよう。

ロシアからの指名手配： プーチン大統領らへの逮捕状発付の判断に関わったとして、2023年7月にロシアから指名手配を受けた。その際、赤根氏は「たとえ1人の裁判官が亡くなったとしても、我々は簡単に代わりがきく存在であるので、私たちを標的にするのは本当に意味がないと思う」と語った。

米国の制裁措置:イスラエルのネタニヤフ首相への逮捕状発付などのICCの活動をめぐり、

↗





“Bene, andiamo a fare un controllo...”

Indice 目次

p.2 政界アラカルト
- 米国の制裁に立ち向かう日本人女性
p.4 かけあしイタリアのニュース
p.6 ルッカコミックス&ゲームズ
p.6 Lucca Comics & Games
p.10 イタリアの街角スペシャル
- 死者のお菓子
p.10 Angolo d'Italia
- I dolci dei defunti
p.13 日本を斬る
- 日本は議論文化が未熟である
P14 チャオジャーナルからのお知らせ
Avviso da Ciao!Journal
p.15 Ciao!Journal in piazza
- 掲示板／annunci
p.16 今月のナイスショット／foto del mese

Ciao! Journal Pubblicazione Periodica
Registrazione
Tribunale di Milano n°53 del 23/01/2017
Direttore Editoriale Junko Kataoka
Direttore Responsabile Eugenio Bersani
Editing e pubblicità Geienneffe Editore S.a.s.
C.F. e Partita IVA: 09698530962
C.C.I.A.A. di Milano REA n°: MI-2108642
Mail: ciao@ciaojournal.com
Web: www.ciaojournal.com
Redazione: Junko Kataoka, Natsu Funabashi, Isato Prugger
Progetto grafico: Gabriel Suzuki Studio
Revisione in italiano: Fulvio Cattaneo
Traduzione in italiano: Christian Lelli
Hanno collaborato a questo numero: Michiko Arikawa, Midori Komatsuzaki, Antonio Ienna, Giovanni Calzone, Masao Yamanashi, Christian Lelli, Kazuhiko Hori, Andrea Tagliasacchi, Riccardo Cammarota
Foto in copertina: Natsugrafa
Illustrazione: Kibausa
Tipografia: Gruppo Stampa GB s.r.l.
Viale Edison, 627 - 20099 Sesto san Giovanni (MI)
Finito di stampare nel mese di novembre 2026
Riproduzione riservata ©Geienneffe Editore S.a.s.

かけあし
イタリアのニュース

2026年8月

●19日、コリエーレ紙「バールのエスプレッソの値段は1996年60セント、2026年1.3ユーロ」。今年1～6月で女性殺害事件34件。史上最高のトロッター（速歩馬）であるヴァレンネが死去。電動自転車にひき逃げされたコモ市長が市内の自転車走行を禁止。●20日、ファイナンシャル・タイムズ紙「イランが欧州を攻撃する可能性大」。パレルモで予防接種を受けていない4歳女児がジフテリアで死亡。●24日、13日にマルタ島近海の国際海域で難民6名を救助したSeaWatch号にイタリアが45日間の航行停止と罰金7500ユーロを課す。コリエーレ紙「ウクライナ攻撃継続がロシア国民に重い負担」。Spotyfy200万人のフォロワーを持つイタリアの人気トラッパーのトニー・ボーイが薬物所持、警察の家宅捜査をオンライン配信。地震で299人が亡くなったアマトリーチェで10周年追悼。●25日、米国が韓国との軍事共同演習停止。●27日、ミラノで多発性硬化症の男性に公的保健機関（ASL）初の幇助自殺実行。フランクフルト空港でマラリア感染者6名、うち2名死亡。●28日、ヴェネツィアで、イスラム教徒1万人が購入した敷地へのモスク建設を市長が拒否。●30日、26日に発生したネパール土石流の行方不明者3000人に。クレモナで巨大ヒョウが降り車1万台損傷、負傷者49人。●30日、チューリヒ近郊のレイヴで発砲、イタリア人女性死亡。アイスランドのEU加盟の是非を問う国民投票で反対派勝利。キプロスでフェリーが転覆し死者8人。米国がイラン爆撃を再開。

9月

●1日、スペイン領セウタの件で、イタリアがシェンゲン協定停止期間を延長、スペインとの国境閉鎖継続。ローマで障害のある娘（5歳）を抱えた夫婦が無理心中。●2日、8月4日にライプツィヒ空港に飛来した爆撃用ドローンはロシアが攻撃用に仕向けたと独政府が指摘。●4日、コリエーレ紙「ガソリンとディーゼルがリットル2ユーロ超え」。メローニ内閣が戦後の最長記録（1413日）。●5日、マッターホルン（標高4478m）で最速登山を目指して訓練中のカナダの登山家マッククリスタル氏が行方不明。コリエーレ紙「暑さが続くせいで献血不足」。●6日、米国代表2名が初めてモスクワでプーチン大統領と面会。ミラノのナヴィリオに何者かが流したガソリンで28キロ汚染。フォルクスワーゲンが10万人解雇。ロンバルディア、リグーリア、シチリアで開催のラリーで事故が相次ぎ、4人死亡。●7日、1995年に8000人以上のボスニア人男性を虐殺したムラディチ司令官をセルビアは「英雄」として国葬に準じる大規模葬儀。チャールズ英国王がハリー王子とメーガン妃を「私的な市民」と定義。●8日、ロンドンの3空港でレーダー故障で1000フライトがキャンセル。コートダジュールの美術館でルノワール2点盗難。●10日、ウディネで老人ホームを訪ねた娘が父親を殺害。●11日、欧州中央銀行が政策金利を0.25%上げる。トランプ大統領「次期選挙で勝てば全国民に5000ドル配布」。ウディネとシエナで豪雨、死者2名。●12日、元外相のエンマ・ボニーノ氏死去。5月から続く30度超えの気温が漸く下がる。●14日、キエフとワルシャワを繋ぐ電車がロシアのドローンの爆撃受ける。●15日、ガスと原油の価格がそれぞれ2.5%、4.5%上昇。クランス・モンタナのディスコ火災で重度の火傷を負った高校生達が各自の学校に戻る。エトナ噴火でカターニャ行きフライトがキャンセル。故フランシスコ教皇が決めた枢機卿の給与10%減額をレオ14世がキャンセル。●17日、交換留学でスペインからメキシコに行った女子学生が何者かに殺される。数ヶ月でメキシコの大学にお



↘

2026年8月にトランプ政権から資産凍結や渡航禁止などの制裁対象に指定された。赤根所長は「私には制裁を受ける理由は全くない。法の支配の危機だ」と反発した。

ICCは米国に対し、外部からの圧力に屈しない旨を改めて表明した上で、米国の圧力は「ICCの独立性に対する露骨な攻撃」と非難し、世界中で行われた残虐行為の究明を続けると宣言した。更に「司法関係者が法の適用を脅かされるとき、危険にさらされるのは国際法秩序そのものである」として、「独立性と公平性をもって任務を十分に果たし続ける」ことを保証した。ICCを支え、同時に監視する「締約国総会」は米国の制裁を「エスカレーション」（行き過ぎた介入）と呼び、「進行中の捜査を損ない、全世界の残虐行為について被害者の救命を目指す国際的な取り組みを妨げるリスクがある」とした。なお、米国はこれまでにも、機密性の高い調査を行うICCのメンバーに対して経済的・法的制裁を適用してきた歴史がある。

日本の高市早苗首相は、赤根氏に対する制裁について「非常に遺憾である。日本の立場とは相いれず、深刻に受け止めている」としながらも、「米国との交渉（意思疎通）を維持する」と述べた。一方の野党、国民民主党党首の玉木裕一郎氏はX上でトランプ氏の制裁を「言語道断であり許されるものではない」とコメント。そして高市政権に対して「ICCへの支持を示し、米国政府にこの不当な制裁の撤回を求めるよう」促した。

EU理事会のコスタ議長は「フォン・デア・ライエンEU委員長と自分はICCを強く支持する。赤根所長とその関係者は、世界で最も凄惨な犯罪の被害者たちの正義を確保するため援助を行っている。この重要な任務を遂行するためにICC職員は独立し、外部からの圧力なしに行動する必要がある」と述べた。ドイツ外務省は「ICCは規定通り任務を果たしており、重大犯罪の加害者を裁くために活動している」。オランダ外相のベーレンドセン氏は赤根氏と会談し、「オラ

ける殺人は5件目。●18日、EUが未成年のSNS使用制限を規則化。ウフィツィ美術館でカラヴァッジョの『バッカス』が雨水で濡れる。●19日、サウジアラビア上空を防衛中の伊のジェット機ユーロ・ファイターがフーシ派の攻撃を受ける。ローマで13歳生徒が担任を刺す。SNSの影響を受けた可能性大。EU補助金を使って来年より軽自動車税を廃止するメローニ内閣の方針をEU委員会が疑問視。●20日、サッカー界のレジェンド、サンドロ・マッツォーラ氏死去（83）。●21日、メローニ首相「学校でブルカ禁止」「1クラスにおける外国人学生の人数制限」。コリエーレ紙「イタリアにおける外国人学生数93万人。うち3分の2はイタリアで出生、50%は欧州国籍」。クーネオ県で泥棒に気付いた家主がその1人を射殺。●22日、ローマのコロッセオで夜間に照明を設置していた男性（22）が落下、死亡。モデナで学生50人が覆面でスーパーを襲撃し商品を破壊。略奪の様子をSNSに投稿。●23日、ローマで神父100人がパレスチナ支援ウォーキング。市の収容施設に保護されていた「森の家族」の子供3人が12カ月ぶりに自宅で両親と再会。世界で900万人（イタリアで25万2000人）を数える「エホバの証人」が輸血を容認。●24日、習近平国家主席夫妻がトランプ大統領訪問。●25日、マルペンサ空港が「シルヴィオ・ベルルスコーニ空港」に変名。教皇がマクロン大統領訪問。●26日、ガソリン高騰抑制策でENIが1か月間、リットル当たり2ユーロ以下に。外国人学生に関する内閣府令発動では全国で約300人が対象になる試算。レオ14世のミサにパリ市民80万人集結。●28日、イタリア発のKpopバンドFourteenデビュー。英国のイギリス空軍基地近くで、テロを準備した疑いで5人の男を逮捕。レオ14世「極右派の宗教は真のキリスト教の表現ではない」。●30日、ドバイからテルアビブに向かう旅客機フライドバイで副操縦士が機長を襲撃、機体を急降下させる。

10月

●1日、9月のインフレ上昇率4.2%。●2日、教育環境悪化に対し、仏の300の学校でデモ。逮捕された学生1700人、負傷した警官87人。国際有識者会議にてプーチン大統領「ロシア領への直接攻撃があった場合、保有するあらゆる兵器が直ちに使用の検討対象となる」。●3日、コリエーレ紙「都市ガス価格が1ヵ月で12.7%上昇」。●4日、スペイン各都市で住居不足に対するデモ。●5日、スペインのサンチェス内閣解散、11月29日に総選挙。●6日、シベリアのペスト研究所職員が感染死。パレルモ教区が子供のprima comunioneまでの期間（3年）を5年に延長したことで祝賀会の回数激減、収入減のレストランや花屋、写真屋など30人がパレルモ大司教庁前で座り込み。●7日、シナーが膝の治療のため2026年は競技に参加しない。ハマスのイスラエル攻撃から3年目。トリノ近郊で羊の群れを移動させていた羊飼いが、羊30頭と共に電車にはねられ死亡。●8日、新選挙法可決。サレルノで59歳女性が自然分娩で女児出産、夫70歳。●9日、14世紀から続くトスカーナのワイン醸造所マルケージ・アンティノーリからワイン3000本が盗まれる（500万ユーロ）。●9日、ノーベル平和賞が国際刑事裁判所のピレイ氏に授与され、米国が抗議。高騰する自然ガス価格についてトランプ、プーチン両大統領が電話会談。●11日、レオ14世、肺に腫瘍がある事を公表。●13日、仏のスーパー500ヵ所で冷凍庫の温度を50度に上げるハッカー攻撃で数億ユーロの被害。●14日、レオ14世、ローマのジェメッリ病院で腫瘍摘出。●15日、ローマで黒のマイクロ車が6件の人身事故を引き起こした事件で未成年者2名逮捕。「退屈しのぎにやった」。

Michiko Arikawa

ンダはICCを断固支持する」と表明した。

一方、逮捕状を受けているネタニヤフ首相は「ICCは国際法を盾にし、隠れて権力を乱用し、正義の原則そのものを損なう偽りの裁判所」と呼び、「私は、ICCの不当な権限濫用に対して断固とした態度で臨むトランプ政権と、ICCの腐敗した指導部に対する制裁を明確に打ち出したルビオ国務長官を称賛する」とコメントした。

2026年度ノーベル平和賞

2026年度のノーベル平和賞が南アフリカの法学者ナヴァネテム・ピレイ氏に授与された。同氏は国連人権高等弁務官、ICC裁判官、国連パレスチナ調査委員長を務め、反アパルトヘイト活動家たちの弁護を引き受けてきた人物で、人権擁護、国際法推進、戦争犯罪の非難など、その揺るぎない献身が評価されたのである。

悲願のノーベル賞を取り逃したトランプ大統領は、ノルウェーのノーベル委員会の選択はパレスチナ側に偏っていると批判。「世界の破滅を回避し、いくつかの紛争を解決した」のだから平和賞に相応しいのは自分であると主張した。

なお、トランプ大統領は現在、 ICCの全裁判官18人のうち9人に制裁を課している。彼らとその家族は米国への入国を拒まれる他、金融サービスへもアクセスできず、買い物さえ困難な状況にある。

大量殺戮手段である核兵器を所有する国の殆どはローマ規程に批准していない（まあ当然だろうが）。そして、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるパレスチナ侵攻に関し、両国のトップに逮捕状が出されているにも関わらず、国民は彼らを「自国の頭」として選出し続けている。

一方で、「自分がいなくなっても次が続く」と言い切った赤根所長は、ロシアと米国という2つの超大国から睨まれ、個人的な制裁を受けても怯まない。正義に対する信念と勇気を持って立ち向かう赤根所長は、日本人として誇らしい限りだ。

Masao Yamanashi

イタリアに少しでも興味をお持ちの方は、お気軽にご入会ください
神戸日伊協会
ASSOCIAZIONE ITALO-GIAPPONESE DI KOBE
日伊両国間の、民間レベルでの相互理解、友好親善を深め、あわせて会員間の親睦をはかります。
■神戸日伊協会・年会費
個人会員お一人　5,000円
＊ペア会員　8,000円
法人会員一口　30,000円<いずれも税込み>
＊ペア会員＝ご夫婦、親子など、会報等の送付先、その他連絡先が同一の方
〒651-0096　神戸市中央区雲井通7−1−1「ミント神戸」17階
神戸新聞文化センター（KCC内）
神戸日伊協会
TEL. 078 (265) 1100　FAX. 078 (265) 1105

ITALIAN CHAMBER OF COMMERCE IN JAPAN
在日イタリア商工会議所
SEGUICI SU INSTAGRAM!
イタリアに恋しちゃう？

イタリアの街角

ルッカ コミックス&ゲームズ

13世紀末〜14世紀初頭にダンテ、ペトラルカ、ボッカチオといった文豪が活躍し、14〜16世紀にはフィレンツェにてルネサンスが花開いた。トスカーナ州は、イタリアの芸術、ひいては西洋の芸術の発祥の地と称えられている。

トスカーナの3人の文豪は、それまでのラテン語ではなくトスカーナの話し言葉で執筆し、これが後の標準イタリア語のベースとなっていく。そして、ヨーロッパ各国の国語文学の発達（ラテン語ではなく母国語で文学を書こうという運動）の発端となった。中世の文学は教会中心の視点のものであったが、ここに、人間のための文学、つまり人間の欲望や矛盾、知性をありのままに描く新しい文学がスタートする。そして、その後に花開くことになる人文主義およびルネサンスの土台となったのである。



ダンテやマキャヴェッリ、ジョットにボッティチェッリにダヴィンチ、ミケランジェロ、そしてガリレオ、プッチーニに至るまで、世界に名を轟かせる人物がことごとくトスカーナ出身であることに、改めて驚きを感じる。オペラも16世紀末のフィレンツェで誕生した。

毎年の10月終わりから11月の初め、つまり「諸聖人の日」（11月1日）の頃、芸術のほまれ高く格式高いこの地に、世界中から「オタク」と呼ばれる人々が集まってくる。目的は宗教的巡礼でも巨匠たちの芸術でもフィレンツェ観光でもない。キャンティワインのテイスティングでもフィオレンティーナ（フィレンツェの有名なステーキ）でもない。その目的は正に漫画とゲームとコスプレである。歴史的な城壁に囲まれたトスカーナの古都ルッカで、世界最大級のポップカルチャーフェス「Lucca Comics & Games」が開催されるのだ。ダンテもさぞかし驚いていることだろう。

トスカーナ州北部にあるルッカ盆地に位置するルッカは、製紙産業の町として知られる。トイレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパーなどのヨーロッパ最大の産地であり、イタリアで使われる衛生用ティッシュ製品の約80%がこの地域で生産されているそうだ。欧州全体で見ても、その5分の1から4分の1がここで生産されているという。ティッシュだけでなく、イタリアで物流に使われる段ボールも約40%がルッカ製だ。ルッケーゼ（ルッカ市民）の話によれば「親戚や友人の誰かしらは製紙工場で働いているか、製紙に関わる何らかの仕事をしている」。ルッカおよび周辺地区は製紙産業地区（Distretto Cartario di Lucca）として公式に指定されている。

ルッカの城壁をくぐって旧市街に足を踏み入れた途端、誰もがこ

Uno scorcio di vita italiana

Lucca Comics&Games

Tra il XIII e il XIV secolo emersero in Toscana grandi autori come Dante, Petrarca e Boccaccio, a seguito dei quali sarebbe poi sbocciato il Rinascimento. Per questo motivo la regione viene considerata la culla dell'arte italiana e, più in generale, della cultura occidentale.

Tra il XIII e il XIV secolo emersero in Toscana grandi autori come Dante, Petrarca e Boccaccio, a seguito dei quali sarebbe poi sbocciato il Rinascimento. Per questo motivo la regione viene considerata la culla dell'arte italiana e, più in generale, della cultura occidentale.

I tre Maestri scrissero non in latino, ma nella lingua parlata in Toscana, cioè quella che sarebbe diventata la base della lingua italiana. Da qui ebbe origine lo sviluppo della letteratura volgare in tutta Europa. Mentre la letteratura medievale gravitava prevalentemente intorno al punto di vista clericale e religioso, successivamente si sviluppò una letteratura più attenta all'essere umano, ai suoi desideri e alle sue contraddizioni. Nacque così una nuova visione della letteratura, che dava maggiore spazio al pensiero umano e che contribuì a gettare le basi per lo sviluppo dell'Umanesimo e del Rinascimento.

Pensare che personaggi conosciuti in tutto il mondo, come Dante, Machiavelli, Giotto, Botticelli, Leonardo da Vinci, Michelangelo e Galileo, fino ad arrivare a Puccini, siano tutti originari di un territorio piuttosto circoscritto come la Toscana lascia stupiti. Anche l'opera lirica ha avuto origine in questa terra alla fine del XVI secolo.

Ogni anno, dalla fine di ottobre all'inizio di novembre, in occasione del ponte di Ognissanti, arrivano in questa regione persone da tutto il mondo, ma non per motivi religiosi, né per ammirare le grandi opere dei Maestri, visitare Firenze o degustare il Chianti e la bistecca alla fiorentina. I cosiddetti nerd, o otaku, arrivano proprio per i manga, gli anime e i cosplay. Presso le storiche mura dell'antica città di Lucca si svolge infatti una manifestazione internazionale dedicata alla cultura pop: il Lucca Comics & Games. Chissà cosa ne penserebbe Dante!

Lucca, situata nella Piana di Lucca, nella parte settentrionale della Toscana, viene definita la città della carta. Circa l'80% della carta igienica italiana viene prodotto in questa zona e questo fatto la rende uno dei poli più importanti in Europa per la produzione di carta igienica, fazzoletti e carta da cucina. A livello europeo, la produzione lucchese rappresenta dal 20% al 25% della produzione totale del settore. Non si tratta solo di carta per uso domestico, ma anche di cartone: il 40% di quello utilizzato per gli imballaggi viene prodotto proprio qui. Secondo i lucchesi, in ogni famiglia o tra gli amici c'è sempre qualcuno che lavora in cartiera, oppure in un'azienda che collabora con le cartiere. Lucca e i comuni limitrofi fanno parte del Distretto Cartario di Lucca, un importante polo industriale del territorio.

Non appena si entra entro le mura di Lucca, si rimane affascinati. Le numerose chiese sparse per la città non hanno nulla da invidiare a quelle di Firenze. I fan di Puccini possono quasi immaginare le melodie





の街に魅了されてしまうだろう。散在するどの教会もフィレンツェの教会に負けないぐらい美しい。プッチーニの出身地でもあることから、オペラファンともなると彼の音楽の旋律に想いを馳せてしまう。今にもその音楽が聞こえてきそうな錯覚に陥る。

このように、普段は落ち着いた町なのだ。だが「ルッカコミックス&ゲームズ」の期間だけは違う。思いっきりはっちゃける。世界中のオタクが思い思いの扮装をしてそぞろ歩く。ルッカにぴったりの中世の騎士が現れたかと思えば、その後ろから『ワンピース』のルフィがヒョイと現れたりする。この町の中世およびルネサンスの佇まいが功を奏してか、すっかりファンタジーの世界になってしまう。

この「ルッカコミックス&ゲームズ」と呼ばれる催しは、1965年にポップカルチャーの見本市「国際漫画サロン」（Salone Internazionale dei Comics）として、リグーリア州のボルディゲーラ市で開催されたのが始まりだ。翌年1966年にルッカに移され、屋内競技場（Palazzetto dello Sport）で行われるようになった。当初はコレクター同士の古本漫画やグッズの交換会のような小規模なもので、友達にちょっと電話して「今日何する？漫画のイベントやってるからそこ行く？」という感じで気軽に行けたそうだ。だが、次第に大手企業も参入する一大見本市へと成長していった。2006年には誕生40周年の節目を機に会場が城壁の内側へと移され、街全体がオープン会場となった。今や、城壁内全体を使って繰り広げられる、世界1、2位を争う重要で大規模なコミックフェスである。2026年の今年は60周年を迎え、開催期間の5日間（10月28日〜11月1日）で来場者約80万人という数字をたたき出した。1日につき16万人来場という計算で、ルッカ城壁内の人口約9000人の18倍もの人が毎日押しかけたことになる。

だが、城壁内に異常な数の人を呼び込むルッカコミックスを、市民はどう思っているのだろうか。バールで朝食中のルッカ人2人に突撃インタビューをしてみた。彼らによると、このイベントに参加するルッカ市民は2割ぐらいらしい。「以前に比べると、もはや僕たち市民限定のお得感がなくなった。どこでも長蛇の列だし、並んだからといって見本市ならではの卸し価格で買うこともできない。値段はむしろ他の場所より高い」と、青年たちはカプチーノをすすりながら不平を述べる。「今朝は5時から4時間半並んでようやくフィギュアを手に入れた。実は昨日も5時間並んだんだよ。だけど、やっと僕の番が来た時に、なんと品切れになった。プライオリティー券の所持者やスタッフにバンバン抜かされたんだよね。あまり

delle sue opere e sentire la sua musica risuonare ovunque.
Lucca è solitamente una città tranquilla, ma durante il Lucca Comics cambia completamente, trasformandosi nello sfondo perfetto per i cosplayer provenienti da tutto il mondo, ognuno con il proprio costume. Ci si può imbattere in un cavaliere medievale, perfettamente in sintonia con il paesaggio lucchese, per poi vedere apparire Luffy di One Piece. Complice la sua atmosfera medievale e rinascimentale, questa città diventa a tutti gli effetti un mondo fantasy.
Le origini della manifestazione risalgono al 1965, quando a Bordighera, in Liguria, si svolse il Salone Internazionale dei Comics. L'anno successivo l'evento venne trasferito a Lucca, e si tenne al Palazzetto dello Sport. Inizialmente nacque come un piccolo spazio dove scambiare fumetti usati e oggetti da collezione. Era un evento tranquillo, a cui si poteva decidere di partecipare anche all'ultimo momento, magari dopo una telefonata casuale tra amici: "cosa facciamo oggi? Andiamo all'evento dei fumetti?". Piano piano, grazie alla partecipazione di grandi aziende, la manifestazione crebbe fino a diventare una delle fiere del settore più importanti al mondo. Nel 2006, in occasione del suo quarantesimo anniversario, l'evento si estese all'interno delle mura, trasformando l'intera città in uno spazio espositivo. Oggi occupa numerose aree del centro storico ed è uno dei festival del fumetto più conosciuti a livello mondiale.
Nel 2026, in occasione del sessantesimo anniversario, l'evento si è svolto dal 28 ottobre al 1° novembre, accogliendo, secondo le cifre riportate, circa 800.000 visitatori in cinque giorni. In media, si tratterebbe di 160.000 visitatori al giorno, quasi diciotto volte i circa 9.000 residenti che vivono entro le mura.
Ma cosa pensano i lucchesi di un numero così esorbitante di turisti? Ho







Pasticceria Pinelli dal 1939.フェス期間は目の回るような忙しさだ。／Durante il festival, il locale è travolto da un'attività frenetica, da far girare la testa.



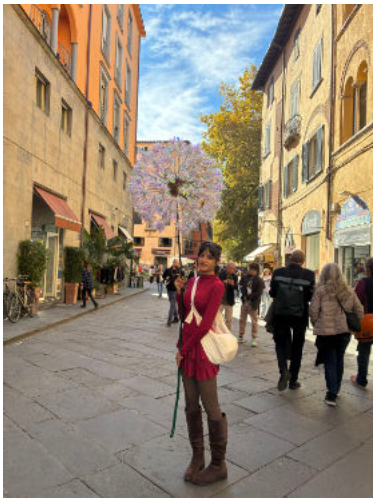
インタビューに答えてくれたルッケーゼの青年アンドレアさんとリッカルドさん。／Andrea e Riccardo, i due lucchesi che ci hanno concesso l'intervista.

に理不尽だ」。「さっきフィギュアを手に入れてパビリオンを出るなり、人が寄ってきて150ユーロで買わせてくれなんて言ってくる。苦労してやっと入手したお宝だよ。たとえ倍の額を提示されても、譲るだなんてとんでもない」。

「ルッカコミックス&ゲームズ」は今や、町の観光業を潤す重要なイベントであることは確かだ。だが一方で市民の気持ちは複雑なようだ。城壁内の店はアニメ関連のグッズを置かない限り、フェス来場者に見向きもされない。私自身も、店員が腕を組んで暇そうにしているブティックをいくつも見かけた。かと思えば、自らバットマンのコスプレをして何とかルッカコミックスに合わせようとしている刺繍屋の店主の姿も目撃した。

この期間はこの町から退避する人が多いという。「多くの店ではこの時期、店舗を貸し出したりもするんだよ。あるブティックは今年は1万ユーロで店を5日間貸しに出しているらしい。だから、普段パンツが並んでる店に今はアニメグッズがぎっしり飾ってあるんだ（笑）。ルッカコミックスは素晴らしいお祭りだと思うけど、どんどんビジネスの傾向が強くなってきているのが残念だ」。ルッカの青年達はこう語った。

なぜこんなにもたくさんの人がルッカまで足を運ぶのか。ここには、オタク文化にパッションを持つ人々が世界中からやって来るのはもちろん、漫画やゲームにそれほど興味がなくても、ただ仮装を楽しみに来ている人も多いのだ。年齢も性別も関係ない。ダンディな仮装を楽しむ地元のお年寄りや、全員でジブリのコスプレをしている家族も見かけた。愛犬をコスプレ仲間に入れて楽しむ人もいる。ルッカで見る笑顔はどれもが眩しかった。こういう気持ちが世界を平和にしてくれるのだと思う。今回ルッカコミックスを訪れて







provato a intervistare due giovani lucchesi che ho incontrato mentre facevo colazione in un bar della città.

Secondo loro, soltanto due lucchesi su dieci sarebbero interessati all'evento. "Rispetto a prima, l'evento ha perso quel senso di esclusività per noi lucchesi. Ci sono code lunghissime per entrare praticamente dappertutto e, anche se ti metti in coda, non è detto che tu riesca a comprare quello che cerchi. Anzi, invece di trovare prezzi all'ingrosso, spesso i prezzi sono ancora più alti", mi raccontano i giovani lucchesi mentre sorseggiano il cappuccino. "Stamattina siamo stati in coda dalle cinque per quattro ore e mezza, sperando di riuscire a ottenere la *figure*. In realtà, anche ieri abbiamo aspettato cinque ore. Ma i prodotti erano già esauriti quando è arrivato il nostro turno, perché quelli con il biglietto prioritario o gli espositori ci hanno superati. Non è giusto!", continua uno dei ragazzi. "Oggi appena uscito dal padiglione, dopo aver acquistato la *figure*, qualcuno è venuto subito a chiedermi se gliela vendessi. Ma come gli viene in mente che io venda il bottino finalmente conquistato? Non lo farei neanche se mi offrisse il doppio del prezzo!"
Il Lucca Comics & Games è sicuramente un evento importante, che porta benefici al turismo. Tuttavia, i lucchesi hanno opinioni contrastanti. Durante la manifestazione, i negozi all'interno delle mura che non espongono oggetti a tema rischiano di non essere presi in considerazione dai visitatori. Io stessa ho notato in negozi vuoti molti commessi annoiati e con le braccia conserte. Allo stesso tempo, ho visto anche un proprietario di negozio che ha cercato di adattarsi alla situazione, travestendosi lui stesso da Batman.



Durante questo periodo molti residenti lasciano la città e diversi negozianti affittano temporaneamente i propri locali. Si racconta che un negozio di vestiti sia stato affittato per 10.000 euro per soli cinque giorni. Ecco perché, sugli scaffali dove solitamente sono esposti vestiti, compaiono improvvisamente oggetti legati agli anime. "Il Lucca Comics è una bellissima manifestazione, ma sa sempre di business, purtroppo", mi hanno raccontato i lucchesi.

Come mai così tante persone vengono a visitare la manifestazione? Per prima cosa, ovviamente, arrivano appassionati del mondo nerd da tutto il mondo, ma anche persone che vogliono travestirsi, pur non essendo necessariamente interessate ai manga o ai videogiochi.
Non ci sono distinzioni di età né di sesso. Si possono incontrare anziani travestiti da gentiluomini d'altri tempi, ma anche intere famiglie vestite da personaggi dei film dello Studio Ghibli, oppure persone che coinvolgono persino i propri cani nei cosplay. I sorrisi che si vedono a Lucca sono davvero affascinanti e fanno riflettere: forse è proprio così che possiamo rendere il mondo più pacifico.

"Sulle mura di Lucca c'è sempre qualcuno che corre, per esempio facendo jogging o portando a spasso il cane. A proposito, mia nonna ha preso la patente proprio sulle mura!", racconta sorridendo il lucchese.
Le mura di Lucca sono lunghe circa 4,2 chilometri e oggi costituiscono un percorso pedonale e ciclabile, oltre a essere un luogo di relax per i residenti. Con grande stupore, ho scoperto che un tempo erano percorribili anche in automobile: venivano utilizzate dai lucchesi come una sorta di circonvallazione. Le mura sono larghe 30 metri e, in passato, vi transitavano anche gli autobus, con fermate apposite.
Sentendo queste storie, il pensiero va inevitabilmente a Puccini (1858-1924), conosciuto anche per essere stato tra i primi possessori di automobili in un'epoca in cui queste rappresentavano ancora una grande novità. Il musicista acquistò la sua prima automobile nel 1901 ed era un vero maniaco della velocità. Chissà, forse anche lui correva in automobile sulle mura di Lucca! ■

みて、これは正に人と人を繋げてくれるお祭りなんだなと感じた。

「ルッカの城壁の上では、いつ行っても誰かが走ったり犬の散歩をしたりしている。そういえば、うちのおばあちゃんは城壁の上で車の免許実技試験をしたんだよ」とルッカの青年が言った。城壁の上は1周約4.2キロ、遊歩道および自転車道が整えられ、地元の人の憩いの場となっているのだ。そして、かつては車も通行していたというから驚きである。市民の生活のための環状道路として使われていたそうだ。何しろ道幅が30メートルもある。路線バスも走り、停留所もあった。だが1980年代末になって、「このままでは歴史遺産が排気ガスと振動で壊れてしまう」と、城壁の上への車の乗り入れが禁止になったのだという。



『もののけ姫』。飼い犬もコスプレの一部です。／La principessa Mononoke. Anche il cane di famiglia fa parte del cosplay.

この話を聞いて、私はまたもやプッチーニ（1858～1924）のことを思い出した。何しろ彼は最も初期の車所持者（彼が最初の車を入手したのは1901年）で、無類の車好き、おまけにスピード狂だった。もしかしたら、当初はまだ車通りが少なくて静かだったこの城壁の上を、好きに乗り回していたのかもしれないな、と。

Natsu Funabashi



上から見たルッカの美しい夜景／La splendida Lucca dopo il tramonto.



JFC INTERNATIONAL (EUROPE) GROUP

https://www.jfc.eu/

イタリアの街角スペシャル

死者のお菓子 I dolci dei defunti

日本では、8月のお盆には亡くなった人の霊が自宅に帰ってくると考え、家に迎えて供養します。一方、3月と9月のお彼岸には、私たちが亡くなった人たちに思いを馳せ、こちらからお墓参りに出向きます。イタリアにも、11月2日の「Commemorazione dei defunti」（死者の日）に家族でお墓を訪れたりして、故人を偲ぶ習慣がありますよね。

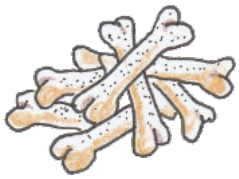
その前日の11月1日は「Festa di Ognissanti」（諸聖人の祝日）で、天国にいるすべての聖人を讃えるカトリックの祝日です。翌日の「Commemorazione dei defunti」は、「聖人だけでなく亡くなった全ての人に祈りを捧げるべき」ということで、作られたのだそうです。

ご多分に洩れず、この時期を象徴する伝統菓子があり、それらは「Dolci dei morti」と呼ばれます。日本語にすると「死者のお菓子」となり、日本ではちょっと考えられないネーミングですよね。イタリア全土で様々なタイプがあると思いますが、その中でユニークなものを取り上げ、一緒に見ていきましょう。



💀 **Pan dei morti** 私の住むミラノでは「死者のパン」がよく知られています。生地にココアパウダーを混ぜているために色が黒く、形も無骨な平べったい楕円形で何やら不気味ですが、食べてみると意外に美味しい。ロンバルディア州発祥のお菓子ですが、ピエモンテ州やリグーリア州、そしてスイスのイタリア語圏など、北イタリアの広い地域でこの時期によく見かけます。

💀 **Ossa dei morti（Sicilia）** シチリアの「死者の骨」というクッキーは、その色合いといい質感といい、本当に骨のようでかなり不気味です。石のように硬いため、シチリア特産のデザートワインであるマルサーラ、あるいはコーヒーなどに浸して食べるのが一般的なのだとか。クッキーの白い部分にスカスカと空洞があることと、焼くときに中の砂糖が溶け出してキャラメル状になることから、何やら「土から掘り起こされた骨」を彷彿とさせるリアルな見かけです。



💀 **Ossa dei morti（Cremona）** バイオリンで有名なクレモナにも「死者の骨」がありますが、こちらは、漫画やイラストで見られる、いわゆる犬が嬉しそうにくわえている骨の形をしていて愛嬌があり、思わずクスッと笑ってしまいます。



ところで、シチリアではなぜ、「骨」をクレモナのように可愛くデフォルメせず、その姿をダイレクトに強調しているのでしょうか？

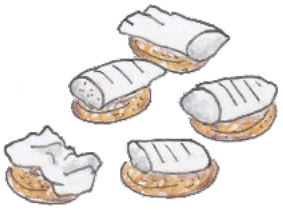
シチリアでは古来より、「骨などの死者を象徴するものを体内に取り込むことで、亡くなっ

In Giappone, durante l'*Obon* (la festività di agosto in cui si accolgono gli spiriti degli antenati), si crede che gli spiriti degli antenati tornino a casa, e le famiglie li accolgano per onorarne la memoria. Al contrario, durante l'*Ohigan* (la ricorrenza equinoziale), a marzo e settembre, siamo noi a rivolgere un pensiero a chi non c'è più, recandoci a visitare le loro tombe. Anche in Italia esiste l'usanza di riunirsi in famiglia per andare al cimitero e ricordare i propri cari il 2 novembre, in occasione della Commemorazione dei defunti.

Il giorno precedente, il 1° novembre, si celebra la festa di Ognissanti, una solennità cattolica dedicata a tutti i santi del Paradiso. La Commemorazione dei defunti viene celebrata proprio il giorno successivo, affinché le preghiere e il ricordo siano rivolti a tutti i defunti e non soltanto ai santi.

Com'è naturale che sia, questo periodo dell'anno è accompagnato da tradizioni gastronomiche e dolci tipici, noti appunto come "dolci dei morti". Un nome che, tradotto letteralmente in giapponese come *shisha no okashi*, suona piuttosto inusuale e può essere difficile da immaginare nel contesto nipponico. In Italia, tuttavia, ne troviamo un'incredibile varietà: scopriamo insieme le versioni più particolari e le storie che si celano dietro di esse.

💀 **Pan dei morti** Nella Milano in cui vivo, il "pan dei morti" è popolarissimo. L'impasto con cacao in polvere gli dona un colore scuro e una forma ovale, piatta e un po' grezza, che può apparire quasi inquietante, ma all'assaggio si rivela sorprendentemente delizioso. Nato in Lombardia, è un dolce che in questo periodo si trova facilmente in gran parte del Nord Italia, dal Piemonte alla Liguria, fino alla Svizzera italiana.



💀 **Ossa dei morti (Sicilia)** In Sicilia, questi biscotti colpiscono per un realismo quasi spettrale. Il colore e la consistenza ricordano in tutto e per tutto delle vere ossa. Sono duri come la pietra, tanto che tradizionalmente si gustano inzuppati nel caffè o nel Marsala, il celebre vino liquoroso locale. L'aspetto poroso della parte bianca e lo zucchero che caramellizza col calore del forno creano un effetto visivo impressionante, che fa subito pensare a delle ossa appena disseppellite.

💀 **Ossa dei morti (Cremona)** Anche a Cremona, la città dei violini, si preparano le "ossa dei morti". Qui, però, la forma è decisamente più pop e scanzonata: ricordano l'osso stilizzato che i cani stringono tra i denti nei fumetti, un dettaglio ironico che strappa inevitabilmente un sorriso.

A questo punto viene da chiedersi: come mai in Sicilia non si è scelto di addolcire la forma delle "ossa" come a Cremona, preferendo invece enfatizzarne il realismo? La risposta affonda le radici in una credenza antica: nell'isola si riteneva che assimilare simbolicamente i defunti attraverso il cibo fosse un modo per onorare gli antenati, ereditandone l'anima e la forza vitale. La morte non veniva allontanata come un tabù

た先祖を偲び、その魂や生命力を受け継ぐことができる」という考え方があるのだそうです。死を不吉なものとして遠ざけるのではなく、身近なものとして取り込もうとしてきたのです。

シチリア出身の作家アンドレア・カミッレーリ（1925-2019）はそのエッセイ『死者たちが家へ帰る道を見失った日』(Il giorno che i morti persero la strada di casa）の中で、「シチリアでは11月1日から2日にかけての夜、亡くなった親族がやってくる。居間の写真の中にいる、よく知っているお馴染みの家族で家の中がいっぱいになる。愛する死者たちは子供達のためにお菓子やプレゼントをいっぱい置いていってくれる」と述べています。

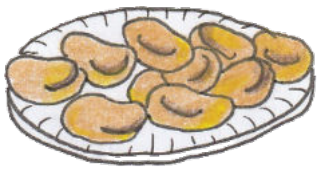
Pupi di zucchero 「死者の骨」のほかにもシチリアには「人型の砂糖菓子」があります。型に砂糖を流し込んで固めたもので、鮮やかな極彩色に色付けされています。カミッレーリが記しているように、亡くなった先祖が良い子たちにこのお菓子を届けてくれるのです。「私たちは確かにここに来たよ。いつもそばにいてあなたたちを守っているよ」と、自分の代わりに砂糖菓子人形を残していくのだと言われています。

Frutta Martorana そして、極彩色のお菓子と言えばフルッタ・マルトラーナを忘れてはいけません。シチリアと言えばなんといってもこれです。果物の形をしたマジパン（アーモンドパウダーと砂糖を練り合わせたもの）で、「先祖が自然の恵みに姿を変えて現世に戻って来ている」という解釈だそうです。この極彩色のシチリア名物も、実はこの時期の特別な食べ物だったのですね。

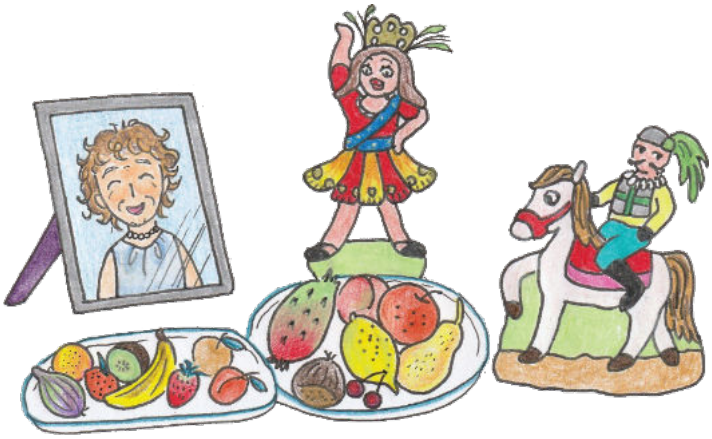
「マルトラーナ」というのは、パレルモにあるマルトラーナ修道院（Monastero della Martorana）に由来しています。伝説によると、ある年の「Festa di Ognissanti」に教皇がこの修道院を訪問しました。修道女たちはこの地の名産であるアーモンドの粉と砂糖を練り合わせた生地を使って、本物そっくりのレモンやオレンジ、イチジクなどを作り、実の落ちた庭の木々に吊るしました。教皇は季節外れの果実に驚き、触ってみてお菓子だとわかると大変喜んだということです。



Torrone dei morti 南イタリアにはギョッとするお菓子がもう一つあります。ナポリの「死者のヌガー」は、なんと棺桶をかたどったもので、現地では親しみを込めて「'O murticiell'（オ・ムルティチェッル＝小さな死者という意味のナポリ方言）と呼ばれています。チョコレート生地の中にローストしたヘーゼルナッツがゴロゴロと入っており、その「カリッ、コリッ」とした歯ごたえは「死者の骨」を表現しているのだとか。行き過ぎにも思えますが、これはナポリ人独特のユーモアで、「どっちにしても避けられないなら、死への恐怖をユーモアで克服し、いっそのこと食べてお守りにしてしまおう」ということなんですね。



o un segno infausto, ma accolta e integrata nella quotidianità. Il grande scrittore siciliano Andrea Camilleri (1925-2019), nel suo saggio “Il giorno che i morti persero la strada di casa”, racconta: “In Sicilia, nella notte tra il primo e il due di novembre, i parenti defunti tornano a trovarci. La casa si riempie di quei volti familiari che siamo abituati a vedere nelle foto in salotto. E questi morti amatissimi lasciano dolci e regali per i bambini”.

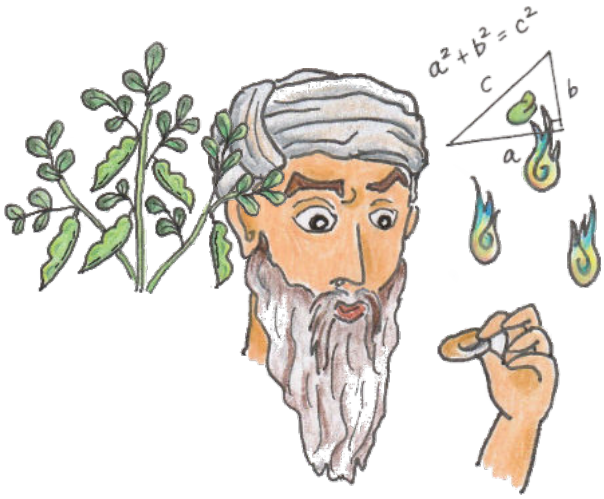


Pupi di zucchero Oltre alle “ossa”, la tradizione siciliana prevede queste statuine antropomorfe. Si tratta di zucchero colato in appositi stampi e poi dipinto con colori vivaci e sgargianti. Come ricordava Camilleri, sono proprio gli antenati a portarli in dono ai bambini che si sono comportati bene. È come se dicessero: “Siamo venuti a trovarvi, vi siamo sempre vicini e vi proteggiamo”, lasciando queste statuine a fare le loro veci.

Frutta Martorana Parlando di dolci dai colori brillanti, è impossibile non citare la frutta Martorana, il celebre marzapane siciliano (a base di mandorle e zucchero) modellato a forma di frutta. Secondo la tradizione, rappresenta gli antenati che tornano nel mondo dei vivi sotto forma di frutti della terra. Anche questa specialità dell’isola, nota in tutto il mondo, nasce proprio come legame con questa ricorrenza. Il nome “Martorana” deriva dall’omonimo monastero di Palermo. La leggenda narra che, in occasione della festa di Ognissanti, il Papa si recò in visita al convento. Le suore, per stupirlo, usarono l’impasto di mandorle e zucchero per creare limoni, arance e fichi identici a quelli veri, appendendoli agli alberi del giardino ormai spogli. Il pontefice rimase meravigliato da quei frutti fuori stagione e, quando scoprì che si trattava di dolci, ne fu entusiasta.

Torrone dei morti Spostandoci a Napoli, troviamo un altro dolce dall’impatto visivo singolare: un torrone morbido al cioccolato modellato a forma di bara. I napoletani lo chiamano affettuosamente, nel loro dialetto, “*O murticiell*” (il piccolo morto). Il cioccolato racchiude nocciole intere tostate, il cui contrasto croccante vuole richiamare, ancora una volta, la consistenza delle ossa. Potrebbe sembrare una scelta estrema, ma riflette l’ironia unica del popolo napoletano: visto che la morte è inevitabile, tanto vale esorcizzarne la paura con il cibo, trasformandola in un amuleto goloso.

Fave dei morti Diffusi in Lazio, Umbria, Marche e nell’Italia nord-orientale, sono biscotti che ricordano la forma di una fava, con una leggera incavatura al centro praticata con il dito. Ma perché proprio le fave? Nel mondo antico mediterraneo esisteva la superstizione



💀 **Fave dei morti** ラツィオ州、ウンブリア州、マルケ州、そして北東イタリアでも見られます。ソラマメの形に似せて真ん中を指で少しくぼませて作ったクッキー。でも死者の日になぜソラマメ？

「ソラマメの茎はあの世とこの世を繋ぐ通路」という迷信が古代の地中海世界にありました。ピタゴラスは、「ソラマメの中には死者の魂が閉じ込められている」として、この植物の近くを歩くことさえ避けたとされています。この大数学者のソラマメ嫌いは古代世界でもよく知られていたようで、古代ローマの博物学者プリニウスは著書『博物誌』の中でその事実に言及しています。同じく古代ローマの詩人ホラティウスはソラマメを「ピタゴラスの豆」と呼び、ピタゴラスの極端なソラマメ嫌いを揶揄していたそうです。

💀 **Grano dei morti** プーリア州のこの時期の伝統菓子は、茹でた小麦の粒に死者の体の部位を表すクルミ（骨）やザクロ（目）、チョコレート（血）やヴィンコット（ブドウの煮詰め果汁でこれも血を象徴する）を混ぜ合わせたもの。土に埋められてから春に新しい芽を出す小麦は、死と復活のシンボルです。キリストは「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネによる福音書12章24節）と語っています。



💀 **Piada dei morti** 皆さんよくご存知のピアディーナはエミリア＝ロマーニャ州伝統の薄焼きパン。この「死者のピアーダ」もエミリア＝ロマーニャ出身で、こちらは甘いお菓子です。薄焼きのピアディーナとは違って酵母を使って柔らかく膨らませるのですが、それは、「旅をして帰ってきた死者が疲れをゆっくり癒やせるように」との思いを込めているからだそうですよ。

「死者のお菓子」のそれぞれに深い意味があることがわかりました。今年の死者の季節は既に終わってしまいましたが、あなたの住む町ではどんなお菓子を見かけましたか？

secondo cui il gambo della fava fosse un canale di comunicazione tra il regno dei vivi e quello dei morti. Pitagora ne era talmente convinto (riteneva infatti che le fave custodissero le anime dei defunti) da evitare persino di camminare vicino a queste piante. L'avversione del grande matematico per questo legume era celebre nell'antichità: ne parla Plinio il Vecchio nella sua "Naturalis Historia", e persino il poeta Orazio ironizzava sulla fobia del filosofo chiamando la fava "il legume di Pitagora".



💀 **Grano dei morti** Questa tradizione della Puglia unisce il grano cotto a ingredienti che simboleggiano le varie parti del corpo dei defunti: le noci (le ossa), il melograno (gli occhi), il cioccolato (il sangue) e il vincotto (di nuovo, il sangue). Il grano, che viene sepolto nella terra per poi germogliare in primavera, è da sempre l'emblema della morte e della rinascita. Un concetto espresso anche nel Vangelo di Giovanni (12,24): "Se il chicco di grano, caduto in terra, non muore, rimane solo; se invece muore, produce molto frutto".

💀 **Piada dei morti** La piadina è celebre in tutto il mondo come il sottile pane piatto tipico dell'Emilia-Romagna. La "Piada dei morti", originaria della stessa regione, è invece una variante dolce. A differenza della piadina tradizionale, si prepara con il lievito in modo da risultare soffice e gonfia: un accorgimento nato dal desiderio di offrire ai defunti di ritorno dal loro lungo viaggio un conforto morbido e accogliente per riposarsi.

Dietro ciascuno di questi dolci si celano storie affascinanti, intrise di memoria e antichissime credenze. E nella vostra città, qual è il dolce tradizionale legato al giorno dei defunti?



Servizio di Junko Kataoka
Illustrazione: Kibausa
Traduzione in italiano: Christian Lelli

日本は議論文化が未熟である

自分がやってきた世界との大きな違いに初めて気づいたときのことを、今もよく覚えている。

それは2013年、安倍氏が2度目の首相に就任したばかりで、後に「アベノミクス」と呼ばれるようになる政策の柱を築いている最中だった（アベノミクス=20年間の経済停滞の後、日本の命運を好転させようとした一連の社会経済的な取り組み）。私は、日本人1人を含む何人かの友人と一緒に恵比寿の居酒屋にいた。気心の知れた仲間でビールを片手に笑い合い、いつものありふれた会話をしていたのだが、その頃ちょうど社会・経済的に大きな変化の時期だったこともあって、私は日本人の友人にシンプルな質問を投げかけた。「今起きていることについてどう思う？」

反応は一瞬だった。その場の微妙な空気の変化を察知できるぐらい長く日本に住んでいない人には、わからなかったはずだ。その友人の目はほんの一瞬だけ下を向き、身体はわずかにこわばった。次に、お馴染みの、あの柔らかいトーンの「そうですね…」の後、長い沈黙があった。そして最後に「複雑だよね」と温かい微笑みを浮かべて言い、彼は何事もなかったかのように別の話題へと切り替えた。

こういった出来事は、それから何年かの間に何十回と起こった。日本において12年暮らし、また働いてきたイタリア人の私がいまだに困ってしまう瞬間である。

イタリアと日本の違い

イタリア、そして西洋世界の大部分において、会話や意見のぶつかり合いは社会の生命線である。私たちは摩擦を通じて人間関係を築くこともある。政治、倫理、宗教、あるいは社会政策などの討論は友情の妨げにはならない。むしろ私の見解では、それは親密さを測る試金石になる。ワインを片手にした会話の中で誰かと情熱的に意見を戦わせることは、相手を真剣に受け止めている証拠だ。本音を明かし、たとえ同意できなくても相手の考えに耳を傾ける覚悟があり、フィルターの無い、ありのままの自分を見せられるほど相手を信頼しているという意味なのだ。

一方の日本においては、「議論を呼びそうな問題」に関し、フィルターのないありのままの自分をさらけ出すことは信頼の証ではない。むしろ、しばしば社会的な攻撃と見なされてしまう。そこには歴史的・文化的背景があって、「和」の概念や、「本音と建前」あるいは「内と外」のダイナミクスなどが関わっているのである。

こういった概念やダイナミクスはある意味正解かもしれないが、日常生活の中で実際にこれに直面すると、どこか冷たく、機械的に感じられてしまうものだ。私はこの地で10年以上、グローバルな同僚や日本の仲間と肩を並べて働きながら、日本人クライアントとも向き合ってきた。その経験から、これらを単なる「古い文化的なルール」としてではなく、むしろ日常のリスク回避のための「直感的な戦略」として捉えている。

この仕組みの中心にあるのが「空気を読む」ことだ（正直なところ、私は様々な理由からこの言葉が大嫌いだ）。日本社会の中での様々な関わりにおいて、その場の雰囲気やトーン（=空気）は、その場にいる全員が共同で守るべき「生きたエンティティ」（実体）のように扱われる。“深い”テーマや議論を呼ぶような話題を持ち出すことは、一瞬にしてその場の空気を重くしてしまうことを意味する。もしあなたが政治的な持論を強く主張すれば、それは相手を窮地に追い込むことになる。相手が同意したとしても、それは上辺だけの同調かもしれない。逆に同意できない場合、その人は「あなたに反論して和を乱すか」、それとも「平穏を守るために嘘をつくか」という、苦しいジレンマに陥るだろう。他人にこのような不快な思いをさせないために、「複雑で意見が分かれそうな話題はそもそも最初から出さない」ことが暗黙の社会契約として求められるのだ。

仕事の場で

私のプロフェッショナルとしてのキャリアにおいて、この現象（空気を読むという暗黙の了解）は、もどかしくも興味深い葛藤を生み出している。私の勤務先では社員の大部分を外国人が占めているのだが、顧客や主要スタッフは日本人である。現地の顧客や日本人スタッフとの会議では、プロジェクトについての議論は非の打ちどころがないほど礼儀正しく、細部まで徹底的に準備されている。しかし、市場のトレンドについて顧客自身がどう考えているか（あるいは、会社の決定についてスタッフがどう思っているか）を理解しようとすると、そこに書かれていない行間を読み取らなければならない。

私はこれまでに何度も、決定を下すための極めて重要な会議（取締役会でのビジネスプランのプレゼンテーションなどもあった）に臨んだことがあるのだが、実際には結論や決定は会議の前に既に舞台裏（根回し）で決まっていた。会議そのものは決定事項を通達するための単なる形式的な儀式に過ぎず、異議申し立てや議論、交渉の余地はまったくなかった。

日常生活の中で

東京で暮らし始めた最初の数年間は、こういった側面を受け入れたり対処したりするのにかなり苦労した。海外からやってきた者は、現地の人と何年付き合っても、その関係が「過剰なほど礼儀正しく心地よい状態」のまま固定されていると気づいたとき、ある独特の孤独感に襲われる。相手の好きな食べ物、旅行先、応援している野球チームなどは知っていても、何が原因で彼らが夜も眠れないほど悩んでいるのか、死後の世界についてどう考えているのか、あるいは前回の選挙で誰に投票したのかといったことは、さっぱり分からない。

最初は自分のせいなのかとも思った。私の日本語があまり良くないからなのか、それとも、彼らにとっての私はいつまで経っても「外人」という枠から抜け出すことはないのか。私は天気や桜についての軽い会話をする相手ではあっても、本当の親密さを共有することのない存在なのだろうか、などと思ったものだ。

今ではもう慣れたし、以前のようにネガティブな感情を抱くこともなくなった。過去の経験から、期待しすぎることもなくなった。ただし、日本に長年住んでも私という人間が変わったわけではない。私は今でも熱く刺激的な議論を強く求めているし、時折、意見が飛び交う騒がしくて長いディナーが恋しくなる。そのような“知的な摩擦”が必要なときは、外国人の同僚や友人を頼るようにしている。私の個人的な“有意義な会話”の定義を満たすために、この国の文化に根づいた根本的なコミュニケーション方法を変えてくれと言うわけにはいかないからだ。もちろんのことながら。

望まれる変化

さて、私個人の視点はさておき…。意見の対立を嫌う傾向がこの国にもたらしている実害を認識しないのは、あまりにも世間知らずと言わざるを得ないだろう。この国の現状を見てみると、異論を封じ込んで“知的な摩擦”を避けようとする傾向が、しばしばイノベーションにブレーキをかける原因となっている。硬直した官僚主義から、時代遅れとなった労働モデルの改革の遅れに至るまで、現在日本が抱える構造的な問題の多くは正に、「現状維持」というものに疑問を呈することができない体質からきている。言葉を戦わせ、新しいアイデアを受

け入れる勇気を持たなければ、「今までずっとこうしてきたから」という枠組みの中で社会が機能不全に陥るリスクがある。

また、私が感じるもう一つの傾向は、いくつかの特定のテーマに対する社会全体の関心そのものが、ますます薄れてきていることだ。日本で（頻繁に）行われる選挙の投票率、とりわけ若年層の投票率が低下の一途をたどっていることからも、それは明白だ。

上記に加え、外交からマーケットに至るまで国際舞台においては、この「会話における過度な慎重さ」は明らかに地政学的弱点となる。より主張が強くストレートな“アクター”たちが主導するグローバルな環境において、明確な立場を表明することや、激しい議論を交わすことをためらう日本の姿勢はたちまち、「弱さ」「ビジョンの欠如」として片付けられてしまうだろう。その結果、日本が最も主張を通すべき時に、その声は国際政治の蚊帳の外に置かれてしまうことになる。

Un italiano in Giappone

L'immaturità della cultura del dibattito in Giappone

Mi ricordo ancora la prima volta che ho notato questa grossa differenza rispetto al mondo da cui provengo.
Era il 2013, Abe era da poco diventato primo ministro per la seconda volta e stava imbastendo i pilastri di quella che poi sarebbe stata chiamata Abenomics (una serie di iniziative socio-economiche per tentare di risollevare le sorti del Giappone dopo due decadi di declino). Ero con due o tre amici, di cui uno giapponese, in un izakaya a Ebisu.
Una conversazione come tante tra persone che si conoscono da un po', tra risate e qualche birra. Trattandosi di un periodo di grossi cambiamenti dal punto di vista sociale ed economico, posi una semplice domanda al mio amico giapponese: “Cosa ne pensi di quello che sta accadendo?”. La reazione fu istantanea, per quanto invisibile a chiunque non abbia vissuto qui abbastanza a lungo da percepire i sottili sbalzi di temperatura nella stanza. Gli occhi del mio amico si abbassarono per un frazione di secondo, la sua postura si irrigidì leggermente. Poi arrivò un morbido, familiare “*Sō desu ne…*” (all'incirca, “Beh, sì…”), seguito da una lunga pausa sospesa. “È complicato”, disse infine, sorridendo calorosamente prima di virare con nonchalance verso un altro argomento.
Episodi di questo genere sono accaduti a decine nel corso degli anni. Da italiano che ha trascorso gli ultimi 12 anni vivendo e lavorando in Giappone, momenti come questo toccano ancora un tasto dolente.

Differenze tra Italia e Giappone

In Italia, e in gran parte del mondo occidentale, la conversazione e il confronto di idee sono la linfa vitale di una società. Costruiamo le relazioni anche attraverso la frizione. Il dibattito, che si tratti di politica, etica, religione o politiche sociali, non è un ostacolo all'amicizia, anzi: a mio modo di vedere è la moneta corrente dell'intimità. Dissentire con passione con qualcuno durante una conversazione davanti a un bicchiere di vino significa dimostrargli che lo si prende sul serio, che ci si fida abbastanza di lui da mostrare il proprio sé grezzo e senza filtri, rivelando le proprie reali opinioni ed essendo disposti ad ascoltare il punto di vista altrui, anche se non condiviso.
In Giappone, invece, rivelare il proprio sé grezzo e senza filtri su questioni “controverse” viene spesso visto non come un atto di fiducia, ma come un atto di aggressione sociale.
Ci sono spiegazioni storiche e culturali, con concetti come *wa* (armonia), *honne* (i reali sentimenti) contrapposto a *tatemae* (la facciata pubblica), o le dinamiche di *uchi* (gruppo interno) e *soto* (gruppo esterno).
Se da un lato questi concetti sono accurati, dall'altro rischiano di sembrare un po' freddi e asettici quando li si sperimenta nella vita di tutti i giorni. Dopo oltre un decennio trascorso qui, lavorando fianco a fianco sia con colleghi internazionali che locali e avendo a che fare con clienti giapponesi, considero questa dinamica meno come un insieme di antiche regole culturali e più come un'istintiva strategia quotidiana di gestione del rischio.
Al centro di questo meccanismo c'è l'espressione (che onestamente non sopporto, per vari motivi), *kūki wo yomu* (letteralmente, “leggere l'aria”). Nell'interazione sociale giapponese, l'atmosfera o il tono di una stanza (*kūki*) è considerato un'entità viva, della cui salvaguardia tutti i presenti sono collettivamente responsabili. Introdurre un argomento “profondo” o controverso, appesantisce istantaneamente l'aria.
Se esprimi una forte opinione politica, costringi l'altra persona in un angolo. Se è d'accordo, potrebbe sembrare una convergenza superficiale; se non è d'accordo, si trova di fronte a un dilemma angosciante: sfidarti e spezzare l'armonia, oppure mentire per preservare la pace. Per risparmiare agli altri que-

チャオジャーナルからのお知らせ

皆様、日頃よりCiao!Journalをご支援・ご愛読くださいまして、ありがとうございます。誠に勝手ながら、2027年の1-2月号を休刊とさせていただき、次号の第65号は2027年3-4月号となります。何卒ご了承ください。なお、SNSではこの期間も常に情報を発信してまいりますので、どうぞご覧ください。
Ciao!編集室

Avviso da Ciao!Journal

Cari lettori, vi ringraziamo per il vostro costante affetto e supporto a Ciao!Journal. Vogliamo comunicarvi che, a malincuore, il numero di gennaio-febbraio 2027 non verrà pubblicato. Il prossimo numero, il 65°, uscirà regolarmente nel periodo marzo-aprile 2027. Nel frattempo, potrete continuare a seguirci sui nostri canali social. Vi ringraziamo per la comprensione.
La Redazione

CIAO! Journal年間定期購読 / CIAO! Journal Abbonamento annuale

●印刷版…22ユーロ（イタリアのご住所のみ）の「お振り込みデータ」「ご氏名」「ご住所」をciao@ciaojournal.comまでお送り下さい。
Geienneffe Editore S.a.s.
IBAN: IT13M0623001602000057063791

※PayPalでお支払いの方はwww.ciaojournal.com→「定期購読」をご覧ください。

●Abbonamento annuale CIAO! Journal in versione cartacea…22euro
（l'abbonamento è rivolto esclusivamente ai residenti in Italia）
Dopo aver fatto il bonifico, invia la ricevuta del pagamento all'indirizzo ciao@ciaojournal.com con il nome e l'indirizzo su cui desideri ricevere Ciao!Journal.
- Fai il bonifico al seguente IBAN:
Geienneffe Editore S.a.s.
IBAN: IT13M0623001602000057063791

●WEB版…無料。ご希望の方はciao@ciaojournal.comまでお申し込みください。また、お友達にご自由に転送なさってください。
●Versione Web di CIAO! Journal…GRATIS.
Se desideri ricevere la versione Web della rivista, scrivi all'indirizzo ciao@ciaojournal.com indicando: nome, cognome e l'indirizzo mail su cui vuoi ricevere la rivista. Ciao! Journal può essere condiviso liberamente con tutti!

sto disagio, il contratto sociale implicito impone che gli argomenti complessi e polarizzanti vengano semplicemente lasciati fuori dalla discussione.

Al lavoro

Nella mia vita professionale, questo fenomeno crea dei contrasti sia frustranti che interessanti. L'azienda per cui lavoro è a maggioranza internazionale, ma i nostri clienti e un solido nucleo del nostro personale sono nativi giapponesi.

Nelle riunioni con i clienti locali o con lo staff giapponese, le discussioni sui progetti sono impeccabilmente educate e, preparate nei minimi dettagli. Tuttavia, cercare di capire cosa pensi realmente un cliente di un trend di mercato (o il nostro staff di una decisione aziendale) richiede la capacità di leggere tra righe che non sono state nemmeno tracciate.

Mi è capitato diverse volte di fare dei meeting che pensavo fossero decisivi nel raggiungere un determinato risultato (una volta fu addirittura la presentazione di un business plan a un consiglio di amministrazione), in cui in realtà risultato/decisione era già stato preso dietro le quinte prima del meeting. Il meeting stesso era una pura formalità per notificare la decisione, senza possibilità di appello o di discussione/negoziazione.

Nella vita di tutti i giorni

Nei primi anni della mia vita a Tokyo ho fatto parecchia fatica a gestire ed accettare questo aspetto. C'è un tipo specifico di solitudine che colpisce un espatriato quando si rende conto che, anche dopo anni di frequentazione, i rapporti con le persone del posto rimangono spesso congelati in uno stato di iper-educata piacevolezza. Conosci il loro cibo preferito, le mete delle loro vacanze e per quale squadra di baseball tifano, ma non hai idea di cosa non li faccia dormire la notte, di cosa credono ci sia dopo la morte o di chi abbia votato alle ultime elezioni.

All'inizio mi sono anche dato la colpa. Pensavo che il mio giapponese non fosse abbastanza buono, o che sarei rimasto per sempre bloccato nella categoria dei *gaijin* (stranieri), qualcuno da intrattenere con conversazioni leggere sul meteo e sui fiori di ciliegio, ma a cui non affidare mai una vera intimità.

Ormai ci sono abituato, e non mi genera più emozioni negative come un tempo. Anche le mie aspettative si sono ridotte in base alle esperienze passate.

Vivere in Giappone per 12 anni non ha cambiato chi sono. Desidero ancora le discussioni accese e stimolanti, e ogni tanto, mi mancano ancora le cene lunghe, disordinate e piene di opinioni. Quando ho bisogno di quel tipo specifico di attrito intellettuale, cerco i miei colleghi internazionali o i miei amici stranieri. Ovviamente non posso pretendere che una cultura cambi la sua modalità fondamentale di comunicazione per soddisfare la mia personale definizione di "conversazione significativa".

Ciao Journal in piazza

こちらは読者の掲示板です／Questo spazio è dedicato agli annunci dei lettori

STUDIO LINGUISTICO SOE di Masatake Soejima
www.studiolinguisticosoe.it
ビジネス文書翻訳（伊英日）／裁判所宣誓翻訳（伊英・伊日）
Translation of Business documents between Japanese↔Italian／Japanese language lessons
イタリアの高校から外国の大学へ進学する際にイタリア語の卒業証書や成績表等の宣誓翻訳証明書が必要になります。私どもにお任せください。

Dentista a domicilio per anziani a Milano
／高齢者訪問診療・来院一般歯科
Dr.Umberto Giacalone (Ord.medici Milano n.2942) ☎3519845346
日本語対応 Suzuki 3317159980

ホールスタッフ募集！
新規開店の寿司店「Hayami」（ミラノCittà studi地区のVia Lomellina）にてホールスタッフ・レジ係を募集しています。イタリア語日常会話程度、夜のシフトに入れる方、一緒に楽しく働きたい方、興味がある方は下記までお問い合わせ下さい。男女・年齢問わず。
池田: milano.ikd@gmail.com

アップライトピアノを安価で買って下さる方を探しています。ご興味のある方はご連絡下さい。
Cell.3202647651 岡林まで

本誌でオペラの話を書いてくれている船橋芳信さんが『世界で最高!なんちゃって、イタリア』という本を出版しました。日本人の生活感覚で42年間イタリアで過ごしたら、自分風にイタリアンスタイルが身についていた、というお話です。オペラ、絵画、歴史、食、ファッション、友情などの話が詰まった1冊。

ミラノ・グローバル・ラーニング・アカデミー（MIGLA）は、日本国籍を持つ子女のための国語補習授業校です。
・日本政府援助対象校 ・幼稚園4歳児～高校生 ・編入随時。見学、授業体験可
お問合わせはmilano.gla2020@gmail.com

ミラノ補習授業校は、毎週土曜日午後3時～6時、ミラノ日本人学校の校舎を借りて国語の授業を行っています。幼稚部（年中・年長）、小学部、中学部、高等部、継承語クラスの13クラスがあります。ご興味のある方は事務局までメールにてお問い合わせください。milanohoshuko10@gmail.com
https://milanohoshuko.com/

チャオ誌面とHPに告知掲載 / Pubblica il tuo annuncio sulla versione cartacea e sul sito di Ciao: 1コマ25ユーロ（20字×5行、英数半角は2文字で1字）/ una casella: 25euro (40 battute per 5righe)

CiaoのFbやインスタ上での告知 / Annunci su Facebook e Instagram di Ciao: Ciaoの告知として2回掲載で25ユーロ（100字、英数半角は2文字で1字、写真1つ）/ L'annuncio verrà pubblicato 2 volte sui social di Ciao: 25euro (200 battute, foto)

詳細とお申込み／
Per info scrivere a
ciao@ciaojournal.com

全部読んだ？
バックナンバーは公式サイトでチェック♪
Puoi consultare i numeri precedenti sul nostro sito ufficiale!
https://www.ciaojournal.com

Un cambiamento da auspicare

Tuttavia, a prescindere dalla mia prospettiva personale, sarebbe ingenuo non riconoscere i costi reali che questa avversione al confronto comporta per il Paese.

In ambito interno, la tendenza a soffocare il dissenso e a evitare la frizione intellettuale agisce spesso come un freno all'innovazione. Molti dei problemi strutturali che oggi affliggono il Giappone, dalla rigidità burocratica alla lentezza nel riformare modelli di lavoro ormai obsoleti, nascono proprio dall'incapacità di mettere in discussione lo *status quo*. Senza il coraggio di scontrarsi verbalmente e di accogliere idee nuove, la società rischia di rimanere paralizzata nel "si è sempre fatto così".

Un'altra tendenza che ho notato è che proprio l'interesse generale verso determinati argomenti sta scemando sempre più. Basti vedere le percentuali sempre più basse di partecipazione al voto nelle (numerose) elezioni che ci sono in Giappone, specialmente tra i giovani.

Allo stesso tempo, sul piano internazionale, dalla diplomazia ai mercati, questa cautela conversazionale si trasforma in un evidente svantaggio geopolitico. In contesti globali dominati da attori ben più assertivi e diretti, la reticenza giapponese a esprimere posizioni nette o a sostenere dibattiti aggressivi viene facilmente scambiata per debolezza o mancanza di visione, finendo per marginalizzare la voce del Paese proprio quando avrebbe più bisogno di farsi valere.

Federico Bianchi
Traduzione in giapponese: Junko Kataoka







今月のナイスショット

東山魁夷の『緑響く』のモチーフとして有名な、奥蓼科の御射鹿池（みしゃかいけ）に立ち寄った。『緑響く』（Midori Hibiku= Green Echoes）は、日本画家・東山魁夷（1908～99年）による、いわずと知れた著名な作品だ（長野県立美術館所蔵）。このなんとも言えず美しい池は、稲作のための溜池として1933年に造られたものだ。地元の人たちによって整備され、自然のままの美しさが保たれており、そして今なお農業施設として利用されている。もはや一大観光地となっているが、訪れる私たちも環境維持に注意を払いたいものだ。

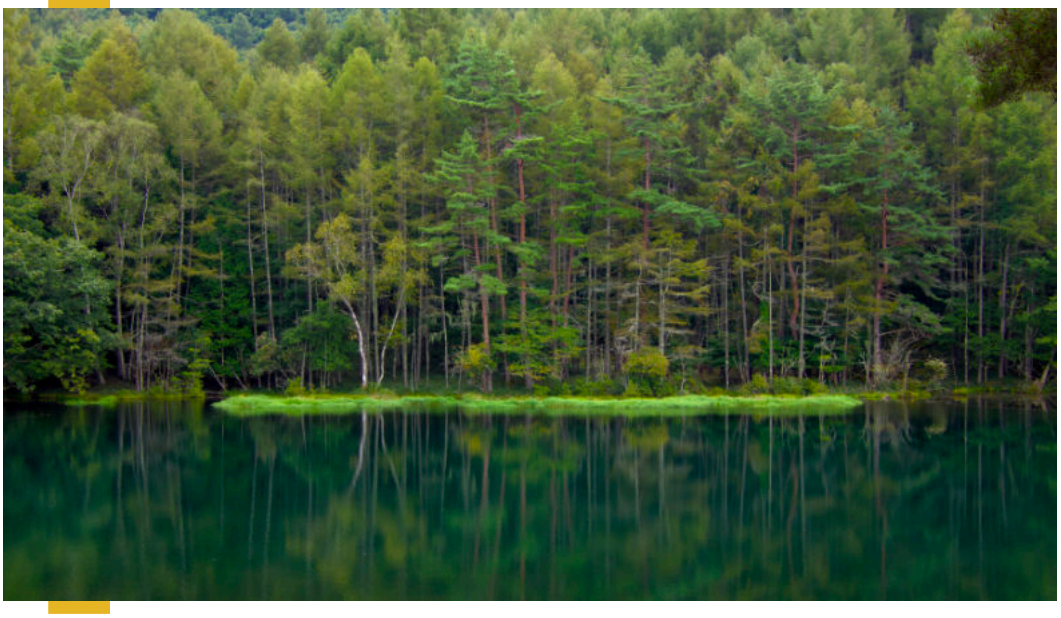


foto del mese

Mi sono fermato al laghetto Mishakaike, a Okutateshina, celebre per aver ispirato "L'eco verde" (Midori Hibiku), una delle opere più note del pittore giapponese Kaii Higashiyama (1908-1999), conserva-ta al Museo d'Arte della Prefettura di Nagano.

Di una bellezza indescrivibile, il laghetto fu realizzato nel 1933 come bacino di raccolta dell'acqua destinata alla coltivazione del riso. Grazie alle cure dei residenti, ha conservato intatto il suo fascino naturale e continua ancora oggi a svolgere la sua funzione agricola. Oggi il laghetto è diventato una rinomata meta turistica. È quindi importante che noi visitatori prestiamo attenzione a non danneggiare questo prezioso ambiente naturale.

Foto: Linus Hori
Servizio di Ciao!Journal